

课题名称：江苏高校哲学社会科学研究基金资助项目
项目名称：汉日隐喻机制对比研究
项目批准号：2014SJB643

李爱华◎著

漢語語彙のメタファーに関する研究
—中国語との対照を通して—

日语中汉字词的 隐喻研究

——兼与中文对比

（日文版）



上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS



课题名称：江苏高校哲学社会科学研究基金资助项目
项目名称：汉日隐喻机制对比研究
项目批准号：2014SJB643

李爱华◎著

日语中汉字词的
常用隐喻研究
兼与中文对比
(日文版)



上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

内 容 提 要

本书利用 2010 年度日本『朝日新闻』、中国《人民日报》的图文数据库,参照日本国立国语研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』以及《北京大学现代汉语语料库》,对照中日词典的释义,运用概念隐喻理论对新闻语言中出现的隐喻扩展进行归纳,分析它们在不同语言中的使用频率以及类型分布等情况,借此考察汉日两种文化对相同事物的认知机制是否具有可比性。

图书在版编目(CIP)数据

日语中汉字词的隐喻研究:兼与中文对比 / 李爱华著.

—上海:上海交通大学出版社,2014

ISBN 978-7-313-12370-1

I. ①日… II. ①李… III. ①日语-汉字-隐喻-研究

IV. ①H362

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2014)第 278124 号

日语中汉字词的隐喻研究——兼与中文对比

著 者: 李爱华

出版发行: 上海交通大学出版社

地 址: 上海市番禺路 951 号

邮政编码: 200030

电 话: 021-64071208

出 版 人: 韩建民

印 刷: 凤凰数码印务有限公司

经 销: 全国新华书店

开 本: 880mm×1230mm 1/32

印 张: 7.5

字 数: 219 千字

版 次: 2014 年 11 月第 1 版

印 次: 2014 年 11 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-313-12370-1/H

定 价: 38.00 元

版权所有 侵权必究

告 读 者: 如发现本书有印装质量问题请与印刷厂质量科联系

联系电话: 025-83657309

序 言

国際交流基金の報告によれば、2012年、世界の136カ国・地域における日本語学習者は、実に398万人余り、日本語教育機関の数は1万6千カ所にも及ぶという。中国だけに限ってみても、日本語教育機関の数は1千8百カ所、日本語学習者の数は104万6千人余りで、もちろん世界第一位である。また、中国教育部の2013年9月の統計によると、中国全土で日本語専攻を設置している大学は延べ506校となっており、英語に次ぐ規模である。

こうした状況の中であって、中国の高等教育機関で日本語を教える教師の資質の向上も当然のことながら求められることとなった。ただ単に技能としての日本語運用能力を教授するのではなく、そこには日本の歴史や文学、地理や経済、それらを取り巻く広い意味での日本文化など、幅広い知識や教養が求められるのである。

このたび淮海工学院で日本語を教えながら、広島大学大学院博士課程で研究を続けている李愛華さんの研究成果がまとめられ公開されることとなった。指導教員として、この上ない喜びである。

李愛華さんはメタファーという視座にたって日中両国の言語現象における共通点や相違点に着目し、日本語と中国語における漢語のメタファーの実態をまとめた。緻密なデータ分析と論理的な思考によって、その実態は丁寧に説明されている。

李愛華さんの研究成果は、もとより日中対照言語学において多大の貢献をするものではあるが、その研究成果は今後の中国における日本語教育界にも大いに貢献するものである。中国人の日本語学習者にとって、メタファーは非常に難しい問題である。李

愛華さんの研究がただ単に研究という範疇にとどまらず、それが日本語教育という場で活かされてこそ、はじめて研究の意義があったと言ってよい。

本書が日本語教育の現場で役立つであろうことを信じ、また李愛華さん自身も、教育現場において更なる問題点を見出し、それを研究するという努力を続けていてもらいたい。

佐藤利行

前 言

2011年2月,我赴日本广岛大学文学研究科留学,在佐藤利行教授的指导下攻读博士学位,主攻人间文化学。

广岛大学有着浓厚的研究氛围,鼓励学生跨学科选课。留学期间,我选修了文学研究科、教育学研究科、综合科学研究科中多门不同研究领域的课程或讲座。跨学科学习拓宽了我的研究思路,更新了旧有的知识结构,为博士论文的写作奠定了基础。

我国自20世纪90年代初开始了以认知理论为基础的广义隐喻的译介和研究,95年后研究渐入高潮。从近两年相关刊物中先后开辟的“认知语言学”、“隐喻研究”专栏来判断,目前隐喻研究在我国仍处于升温阶段,有价值的研究成果不断涌现。但是综观这一领域的研究可以看到,针对汉日对照尤其是新闻语言的隐喻研究却是寥寥无几。

本书利用2010年度日本『朝日新闻』、中国《人民日报》的图文数据库,参照日本国立国语研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』以及《北京大学现代汉语语料库》,对照中日词典的释义,运用认知言语学的概念隐喻理论对新闻语言中出现的隐喻扩展进行归纳解读,分析它们在不同语言中的使用频率以及类型分布等情况,借此考察汉日两种文化对相同事物的认知机制是否具有可比性。

本书是在我博士论文的基础上修改而成。因研究视野与水平的局限,加上时间仓促,书中不乏疏漏谬误之处,敬请相关专家、学者以及各位同仁不吝赐教。

李爱华

2014年11月

目 次

第1章 序論	1
1.1 研究の背景	1
1.2 研究範囲と研究の目的	6
1.3 本研究の構成	9
第2章 先行研究の概観	12
2.1 メタファーに関する理論	12
2.1.1 伝統的なメタファー理論	12
2.1.2 認知言語学におけるメタファー理論	15
2.1.3 伝統的なメタファー理論と認知メタファー 理論の対比	20
2.2 メタファーの形式	22
2.3 メタファーの同定	24
第3章 データの収集と分析	26
3.1 データの収集と分析の手順	26
3.2 本研究におけるメタファーの使用概観	28
3.2.1 両言語における意味分類の分布傾向	28
3.2.2 両言語における語構成上の特色	33
3.2.3 両言語における意味拡張の傾向	34
第4章 モト領域を固定した事例研究(1)——人間にまつわる 漢語語彙	41
4.1 問題の所在と本章の目的	41
4.2 先行研究	43

4.3 身体部位語彙をモト領域とするメタファーの類型 及び分析	44
4.3.1 構造的位置づけの類似性に基づくメタファー	45
4.3.2 形状の類似性に基づくメタファー	48
4.3.3 機能の類似性に基づくメタファー	50
4.4 人間の身体経験に基づくメタファー	55
4.4.1 人間の姿勢や動作に基づくメタファー	55
4.4.2 人間の生命や健康に基づくメタファー	58
4.5 まとめ	63

第5章 モト領域を固定した事例研究(2)——物質の状態変化

を表す漢語語彙	70
5.1 問題の所在と本章の目的	71
5.2 先行研究	73
5.3 物質の状態変化をモト領域とするメタファーの典型 用例	74
5.3.1 拡張された意味用法が完全に一致するケース	74
5.3.2 拡張された意味用法が部分的に一致するケース	87
5.4 「蒸発」に関する通時的分析	89
5.4.1 「蒸発」についての辞書記述	90
5.4.2 年代別に見た「蒸発」の使用例	92
5.4.3 「蒸発」の意味別の用例数の変化	93
5.5 まとめ	96

第6章 モト領域を固定した事例研究(3)——住居を表す

漢語語彙	99
6.1 問題の所在と本章の目的	99
6.2 先行研究	101
6.3 住居をモト領域とするメタファーの典型用例	103
6.3.1 構造のメタファーに基づく表現	103
6.3.2 存在のメタファーに基づく表現	109

6.3.3 方向付けのメタファーに基づく表現	119
6.4 まとめ	123
第7章 サキ領域を固定した事例研究——「手段・方法」を	
表す表現	127
7.1 問題の所在と本章の目的	127
7.2 先行研究	130
7.3 「手段・方法」を表すメタファーの日中対照	130
7.3.1 手段・方法は「経路」である	131
7.3.2 手段・方法は「道具」である	136
7.3.3 手段・方法は「治療」や「医薬品」である	140
7.3.4 手段・方法は「身体部位詞」である	143
7.3.5 手段・方法は「生命や財産を守る拠り所」である ..	144
7.3.6 その他	147
7.4 まとめ	148
第8章 モト領域とサキ領域を固定した事例研究——	
ペアの形で構成される表現	150
8.1 問題の所在と本章の目的	150
8.2 先行研究	154
8.3 自然現象をモト領域とする中性的感情表現	156
8.3.1 感情一般をサキ領域とするパターン	156
8.3.2 欲望をサキ領域とするパターン	159
8.4 自然現象をモト領域とする肯定的感情表現	162
8.4.1 喜びをサキ領域とするパターン	162
8.4.2 希望をサキ領域とするパターン	166
8.5 自然現象をモト領域とする否定的感情表現	169
8.5.1 失望(絶望)をサキ領域とするパターン	170
8.5.2 恐怖をサキ領域とするパターン	172
8.6 まとめ	173

第9章 結論 181

9.1 本研究のまとめ 181

9.2 日本語教育への示唆 191

9.3 今後の課題 196

参考文献 197

付録 205

付録1 抽出された日本語の漢語(273語) 205

付録2 抽出された中国語(299語) 208

付録3 『分類語彙表』一中項目一覧 212

付録4 《現代汉语分类词典》分類項目 215

付録5 メタファー表現理解テストの内訳 219

付録6 メタファー表現理解テスト 222

付録7 第8章に用いた主なデータ 225

謝辞 230

第1章 序 論

本研究では、日中対照研究を基礎として、漢語語彙におけるメタファーの研究を扱っている。本章では、まず、本研究の背景について述べ、その後、本研究の目的、研究範囲と構成について述べる。

1.1 研究の背景

日本語は、和語・漢語・外来語から成り立っている。国立国語研究所の『現代雑誌九十種の用語用字』の調査(1962)によれば、1956年の1年間に、雑誌90種で使用された異なり語数は約3万語で、語種分類すると、漢語が5割弱を占めるということである^①。また、小学館の『新選国語辞典』第8版の収録語についてのウィキペディア(2002)の統計によると、和語は33.8%、漢語は49.1%と「辞書のほうが漢語の比率が高い」とコメントしている。国立国語研究所の調査とウィキペディアの統計では、約40年のひらきがあるが、その割合について言えば今や和語よりも漢語のほうが多くなっていることは否めない事実である。

外国語学習においては、母語の知識が活用できれば、何も分からない状態からの学習に比べて、外国語の習得が促進されることは言うまでもない。勿論、これは日本語学習においても同様であ

① 山崎・小沼(2004)は、現代語の語彙・表記に関する基本的な統計情報は、長い間国立国語研究所の現代雑誌90種の調査の結果を引用するということが続いてきたため、その欠落を補う意味で、1994年発行の月刊誌70種を調査対象に選定し、延べ語数、異なり語数でみた語種の構成を分析したところ、漢語がそれぞれ48.1%、30.6%、和語が37.2%、24.1%を占めると示す。

る。中国人にとって、日本語を学習する時、最も取り組みやすいのは、日本語の漢字と漢語の学習ではないだろうか。『中国人のための漢字の読み方ハンドブック』に掲載されている漢字2674字(常用漢字1945字、人名漢字123字、常用漢字以外の漢字606字)のうち、1656字が中国語とまったく同じ字形の漢字である。また、日本語の語彙構成には、漢語の延べ語数が全体の41.3%を占め、とりわけ、二字熟語においては、日本語の国語辞典に掲載された語彙のうちでもおよそ70%にものぼる(Yokosawa & Umeda, 1988)。現代中国語と対応のある漢字語4,600語のうち、同形同義語は54.5%、同形類義語は14.9%、同形異義語は4.1%と、70%余りが日中両言語の間で表記の共通した同形語^①であるという(陳, 2002)。表記の違いを除けば、日本語で使用されている漢字の約98.1%を既に知っているとの記述もある(菱沼, 1983, 1984)。日中両言語の間には量的に高い共有性があることが分かる。

目標言語と母語の間で共有された語彙情報が多ければ多いほど、母語の語彙知識を基盤に語の意味を的確に捉えて理解につなげることができる一般的な考えられるため、中国人日本語学習者が日本語の漢字・漢語を学習する上で、非漢字圏学習者よりも明らかに有利な点を持っていると言えよう。

ところが、日中両国語の漢字の意味は長い歴史の中で、ある程度異なったものになってしまっている。漢語を同じ漢字で表記し、その語の本来の基本的な意味、すなわち「第一義」は同じであるにも関わらず、拡張された^②意味用法が常に同じだとは限らない。例えば、

① 日中同形語を認定するにあたっては、いわゆる字体の相違は考慮しないこととし、旧字体(康熙字典体)が共通である字をすべて同形とした。

② どのような言語においても、一つの語で複数の意味・概念を表す現象は見られる。これは、限られた語彙でなるべく多くの意味・概念を表そうとする、いわゆる「言語の経済性」と一般に呼ばれる原理によるものと思われる。ある語の基本的な意味に基づいて、すなわち基本的な意味を変化させることによって、新たな意味が派生されることは「意味拡張」と呼ばれている。「メタファー」が意味拡張の代表的なものの一つとされている。

(1a^①)日本でも自治体やNGO、企業、教育機関が連携し、難民の暮らしを息長く見守り、一人ひとりの能力を開花させる「人づくり」の視点での支援態勢を築くべきだ。(9月24日^②)

(1b)他表示,新中合作已开花结果,但仍有进一步发展的潜力(シンガポールと中国両国間の協力は見事に花が咲き、実を結んだ。それに、発展の潜在的可能性も大きいと彼は表明した^③)。(10月4日)

(2)その結果、国会本来の役割である審議が空洞化し、与野党の交渉は水面下に潜り、政治のプロセスが有権者の目に見えにくくなった。(9月30日)

(3)鳩山政権が発足して4カ月、普天間問題という太い刺はのどに刺さったままだが、日米関係の齒車がようやくかみ合いだした。(1月14日)

(4)利用电子邮件、博客、微博等渠道，加强与人民群众的沟通(電子メール、ブログ、ツイッターなどルートを利用して、国民とのコミュニケーションを高める)。(3月11日)

(5)把短期调控与长期制度建设结合,既有利于房地产市场的长期健康发展,也有利于加快经济发展方式的转变(短期的な制御と長期的な制度構築を有機的に結合させることは、不動産市場の安定的

① 日中対照を見分けやすいように、ペアになっている日本語の例文をa、中国語の例文をbと記す。以下も同様とする。

② 本研究における例文は主に『2010年度朝日新聞—社説』、『2010年度人民日報—人民論壇』に基づいて収集したものである。そして、本研究は日本語と中国語の漢語の対照研究を行うことを目的とするため、例文を分析するに当たり、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』と《北京大学現代漢語語料庫》(北京大学現代漢語コーパス)によって用例を追加した場合もある。《北京大学現代漢語語料庫》は、現代中国語と古典中国語と合わせて4億7700万字と分量だけで言えば、かなり巨大なコーパスであり、中国語のコーパスとしては最大級であるため、中国語関係者の間で専ら使われている現代中国語コーパスの代表である。なお、例文の後ろの数字は当該新聞の発行日付である。発行日付が付いていないものは『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)と《北京大学現代漢語コーパス》(CCL)によって追加した用例である。

③ 日本語訳は筆者による。以下も同じ。

かつ健全な發展を促進するだけではなく、經濟發展方式の轉換を加速させることもできる)。(9月14日)

(6a)断水が続き、お湯にパンの耳やご飯を混ぜた団子しか提供できなかった日もあった。(BCCWJ)

(6b)我国是黒木耳主要产地,产量和质量都居世界首位(我が国は黒キクラゲの主な産地であり、生産量、質とも世界をリードしている)。(CCL)

植物が種から芽を出し、花が咲き、実が成るという成長過程をたどるという知識を我々は普段持っていると思われる。例文(1a)では、難民の保護と能力強化を通じて個人の自立と持続可能な社会づくりをめざす支援策について述べている。難民一人ひとりの持つ豊かな可能性を実現させ、何かができること、自立させることを「開花させる」^①と表現している。(1b)の場合は、両国間の関係の發展を表現するのに植物の「開花」、「結実」が使われている用例である。これは、〈何かを達成すること、成果を上げること、を目的とした人間の営み〉の諸段階と〈植物の生長過程〉の諸段階との間に対応関係が存在すると考えられているからである。(2)の場合は、陸上に立っている人からは、水の中はよく見えないことから、表立って見えない部分のことを「水面下」と言われている。ここでは、〈外からは簡単には見えず、表面にはあらわれないところ〉を含む元の意味から、〈公には発表されないところで会ったり、いろいろ根回ししたり、つまり裏でこっそり秘密に動いていること〉に意義が拡張する。

機械は複数の部分・部品からなっており、それぞれの部分・部品は機械の構造上あるいは機能上決まった役割を果たす。(3)の「歯車」はある種の機械の「部品」である。一つひとつの歯車はギザギザで、あちこち欠けているが、歯車の欠けている部分に他の歯車

① 本研究で使用する記号の意味は以下の通りである。「」(かぎ括弧):日本語の表現、“ ”(二重引用符):中国語の表現、<>(二重山括弧):概念、〈〉(山括弧):当該の語の意味・用法。

の歯がガッチリと組み合わして、歯車はその本領を発揮するのである。「日米関係の歯車がかみ合う」というのは、両国の考え方や行動の調和がうまく取れて、物事が順調に進み、双方が納得できる解決策を見いだす兆しは見えてきそうにあることを表している。言い換えれば「歯車がかみ合う」とは〈二つ(以上)の行為などがうまく組み合わして良い結果が出る〉ということである。

(4)の“渠道”とは、〈灌漑用、排水用に掘った水路〉がその本来の意味である。ここでは、水が通るように掘った溝の経路作用に着目することによって、〈ルート〉に意義が拡張される。(5)の“健康”は、〈日常の社会生活や積極的な行動に堪え得る体の状態〉がその本来の意味である。ここでは、すこやかで調和の取れた良い状態に着目することによって、〈不動産市場全体の健全な発展〉に意義が拡張される。

(6)では、聴覚にとって重要な器官として広く認知されている「耳」は、日本語では〈人間の顔の端に位置する〉に焦点を当てる位置類似のメタファーによって「パンの耳^①」に意味が拡張されているのに対して、中国語では形状類似のメタファーによって“木耳^②(キクラゲ)”、“银耳(白キクラゲ)”に意味が拡張されている。中国人日本語学習者が「パンの耳」を理解できない^③のは、この「耳」を使用している語の意味の拡張されていく方向が異なるからである。

上述の例文を読めば分かるように、漢語におけるメタファーには、「開花」のような日中両言語に共通するものもあれば、「水面下」、「歯車」、「渠道」、「健康」といったような日本語か中国語の一方にしか見られないものもある。それに、「耳」のような「基本的な意味」は同じであるにも関わらず、拡張された意味用法は必ず

① 日本語では「パンの耳」は食パンの焼かれて茶色く固く変質した周辺部分の俗称である。

② 木の平面に菌が萌え、その形が人間の耳に似ていることから「木耳」と呼ばれている。

③ 詳しくは9.2を参照する。

しも一致していないものもある。

中国人學習者が日本語を習得する時、辭書も引かずに、常に自分の持っている中國語の漢字知識に基づいて、日本語の漢語を理解し、使おうとする傾向が見られる^①ため、中國人が日本語を學習する場合、拡張されている意味が全く同じ漢語を習得する際には負担が軽くなるわけであるが、異なる意味を持つ漢語を學習する際には、注意を払う必要がある。そこで、中國人日本語學習者のためには、同じ漢字、漢語を用いているという利点を生かしつつ、誤りやすい点と注意すべき点を明らかにする必要があると思われる。

1.2 研究範圍と研究の目的

日中兩言語を対照研究するにあたって、様々な方面からアプローチすることができるが、本研究では前述の趣旨によって、漢語におけるメタファーの日中対照に焦点をしばることにした。

メタファーは個々の語彙の問題ではなく、体系をなすとされるが、兩言語の漢語において、メタファーに基づく意味拡張の範囲及び特徴はどうなっているか。漢語の實際の用例に基づき、それぞれの表現の本来の意味のどのような特徴に注目し、どのようなメタファーに基づき、新たな意味に拡張しているかを検討することによって、漢語におけるメタファーの實態を明確にしようとするのが本研究の目的である。

また一方で、文化が異なれば、我々を取りまく環境や使用する言語も変わってくる。「議論」という漢語を戰略を駆使し勝ち負けを決める「戦争」に喩えたこのメタファーは、文化背景によっては成立しないという可能性も考えられる。言い換えれば、概念メタファーは人間自身の存在している物理的環境の文化と切っても切

① 詳細については阿久津(1991)を参照する。

れない関わりがある。

谷口(2003)は、概念メタファーが経験のゲシュタルトを介して得られるものであるとすれば、文化的な相違が当然ながら生じると指摘する。例として《ARGUMENT IS WAR》(議論は戦争である)という概念メタファーを挙げた。日本語の場合は、武器と言えば「刀」であるという連想が働くため、言語表現のレベルでは「相手の意見を突く」、「相手の意見を一刀両断にする」のような刀に関する表現が多く生じる。しかし、根源的には英語の場合と同様に《ARGUMENT IS WAR》という概念メタファーがあるからこそ、「意見を戦わせる」、「彼の議論に降参した」のような一連のメタファー表現が生まれているのであるとされる^①。

Kövecses(2005)も概念メタファーと文化の関係について触れ、文化という概念を「小さい集団または大きい集団に属する人々を特徴付ける一組の共通認識」^②と捉え、概念メタファーと文化の繋がりについて詳細に考察した。それによると、概念メタファーと文化は主に次の6点において密接に関連している。第一に、世界に対する我々の共通認識の中には具体的な物事の認識のみならず抽象的な物事の認識もあり、抽象的な物事(議論、恋愛など)の認識においてはよく概念メタファー(《議論は戦争である(表現例:「議論の弱点を突く」》、《恋愛は旅である(表現例:「結婚に至った」》)などに反映されているメタファー的な思考が大きな役割を果たしている。第二に、概念メタファーは多くの場合、文化の重要な部分である言語によって表出されている。言語は概念メタファーの主な標識だと言える。第三に、概念メタファーは一般に、ある特定の文化において、強い物理的な存在様式を持ち、風習、行動、象徴、人工物などの社会文化的な実践を通して表出されることがある。第四に、概念メタファーはメタファー表現の形で談

① 詳細は谷口(2003:28-30)を参照する。

② 日本語訳は筆者による。原文は次のとおりである。“a set of shared understandings that characterize smaller or larger groups of people.” Kövecses(2005: 1)